

研究・調査報告書

報告書番号	担当
50	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Type of alcoholic beverage and risk of head and neck cancer--a pooled analysis within the INHANCE Consortium. アルコール飲料のタイプと頭頸部癌 INHANCE による pooled analysis	
執筆者	
Purdue MP, Hashibe M, Berthiller J, La Vecchia C, Dal Maso L, Herrero R, Franceschi S, Castellsague X, Wei Q, Sturgis EM, Morgenstern H, Zhang ZF, Levi F, Talamini R, Smith E, Muscat J, Lazarus P, Schwartz SM, Chen C, Neto JE, Wunsch-Filho V, Zaridze D, Koifman S, Curado MP, Benhamou S, Matos E, Szeszenia-Dabrowska N, Olshan AF, Lence J, Menezes A, Daudt AW, Mates IN, Pilarska A, Fabianova E, Rudnai P, Winn D, Ferro G, Brennan P, Boffetta P, Hayes RB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2009 Jan 15;169(2):132-42. Epub 2008 Dec 8.	
キーワード	
総合分析、INHANCE、アルコール、頭頸部癌	
要 旨	
<p>目的： アルコール飲料別の頭頸部との関連について検討した。</p> <p>方法： ビール、ワイン、蒸留酒消費と頭頸部癌の関連について 15 のケースコントロール研究(9107 ケース、14219 コントロール)の pooled analysis を行った。飲料の消費量との関連を種類ごとに非飲酒者(1124 ケース、3487 ケース)をリファレンスとしてビールのみ(858 ケース、986 コントロール)、蒸留酒のみ(499 ケース、527 コントロール)、ワインのみ(1021 ケース、2460 コントロール)について計算した。</p> <p>結果： エタノール換算するとビールのみ(オッズ比=1.6, 1.9, 2.2, 5.4、飲酒量が順に 5 単位以下、6-15 単位、16-30 単位、30 単位以上/週、$P<0.0001$)、あるいは蒸留酒のみの飲酒者(1.6、1.5、2.3、3.6 $P<0.0001$)で同様にリスクの上昇を認めた。ワインのみの飲酒者では中等量以下ではほとんど見られなかったが大量飲酒者ではリスクの上昇を認めた(1.1、1.2、1.9、6.3$P<0.0001$)。</p> <p>結論： この研究での知見は頭頸部癌の相対リスクはビールや蒸留酒で同程度であった。中等量のワイン飲酒とは弱い関連であったが、これについてはこのことを説明できる食事はほかの生活習慣の関連を除外することはできなかつた。不均一性があるためにこの結果について慎重に解釈する必要があるだろう。</p>	